
Rewriteの世界でヴァンガード

フグ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

R e w r i t e の世界でヴァンガード

【Nコード】

N 2 5 6 8 Z

【作者名】

フグ

【あらすじ】

作者紹介です。

皆さん始めまして今回出展しましたフグです見ての通り駄作ですが、こんな作品でも暇ならしゃあないから見てやろうくらいで見ていただければ嬉しい限りです。

先に言っておきますこんなのR e w r i t じゃ無いってところは多々有るのでご注意を。

それでも良いという人は見てください。

ヴァンガード前編（前書き）

このグダグダ感たまんねー

ヴァンガード前編

吉野「もう我慢ならねー、天王寺俺とデュエルしろ。」

そう言うて来たのはクラスメートであり不良の吉野晴彦だ。

瑚太朗「悪いが吉野俺はデュエルはしないがファイトなら受けて立つぜ。」

そして、こんな風に返した軽い男天王寺瑚太朗こそおれである。

吉野「よし俺とヴァンガードファイトで勝負だ。」

互いにデッキをシャッフルして、カードを5枚ドロースする。

吉野「俺はノーチェンジだ。」

瑚太朗「俺はカードを2枚戻しシャッフルして2枚ドロ」

お互い入れ替えが終わったからファイト開始だ!!

吉、瑚「スタンドザヴァンガード。」

吉野「バトルライザー。」

瑚太朗「コンロー。」

ターン1吉野手札5Vバトルライザー瑚太朗手札5Vコンロー

吉野「先攻は貰うぜ、ドロ！シャウトに俺様ライド、バトルライザーは左後方にコールこれでターンエンドだ。」

ターン2吉野手札5Vシャウト左後方ライザー瑚太朗手札5Vコンロー

瑚太朗「俺のターン、ドロゴジョーにライドコンローV後方にコールさらにバーを左前方にコール

アタックフェイズバーでVにアタックだ。」

吉野「ノーガードトリガーチェックラウンドガールパワー+5000はシャウトにヒールはしないな」

瑚太朗「コンローをブーストしたゴジョーでアタック。」

吉野「くそ、ノーガードだ!」

瑚太朗「トリガーチェックターダパワー+5000と☆+1をゴジョーに」

吉野「トリガーチェック1枚目アシュラカイザー、2枚目スリーミニッツパワー+5000をシャウトに

そしてドロースるぜ!!」

瑚太朗「ドロートリガーかまあ仕方ないなターン終了だ。」

前半だけでダメージ3点付いたここからどうなるかは後編に続く!!

ヴァンガード前編（後書き）

今回は時間が無かったので前編と言う形にしました。基本的には全部書き終わりますのでよろしく願います。

ヴァンガード後編？（前書き）

サブタイトル通りヴァンガードの続きとは限りません。

ヴァンガード後編？

前編の続きだが、こんな展開になれば良かった・・・
実質はこうだ

吉野「天王寺俺とデュエルしろ！！」

瑚太朗「悪いが吉野俺はカードゲームはしない。」

本当はバリバリしている人間なんだよなあ・・・

吉野「決闘と意味で使った！」

本気の目だった。

見た目通りの一匹狼だが、普段はクールだ。

瑚太朗「残念だよ吉野親友同士で、争うことになるなんてな」

吉野「てめえと親友になったつもりはねえ、そいつを今日体で理解させてやる。」

瑚太朗「どうやら本気みたいだな、分かった受けて立つ」

吉野「放課後、裏庭に來い、そこでジ・エンドくれてやる。」

瑚太朗「ああ、だがひとつだけ言っておく。」

吉野の波動に当てられた俺はニヒルな気分になって言う。

吉野「なんだ」

瑚太朗「俺はそう簡単に終わる男じゃない」

吉野「上等だ、そんなてめえの吼え面見物だな。放課後だ忘れるんじゃないねえぞ」

瑚太朗「ああ、理解^{わか}っている。」

その約束を忘れて俺はあっさり帰宅した。

ヴァンガード後編？（後書き）

ヴァンガード？なんてどこにも出てないじゃん。
まあ今日はこんな感じで切り上げます。

小鳥現れる前編（前書き）

今回はちゃんとヴァンガードをします。オリカが出ます。

小鳥のデッキはグレートネイチャーです。

トリガーは全部4枚ずつです。

小鳥現れる前編

そして土曜日の夜に吉野との約束を思い出した。月曜日に謝れば良いだろうと思ってその日は寝た。

そんな事をしていたから夜に召集が掛かった。

しかし今までにも何度も召集は掛かっている。

理香子「小鳥さんが、森から帰らないので、連れ戻してきて下さい。」

瑚太郎「わかりました。」

そう言われて、俺は森にやって来た。

小鳥「ZZZ」

しばらく行くと小鳥は寝ていた。

瑚太郎（無防備だな）

小鳥を起こすために、体をゆすってみるが、小鳥は起きる気配が全く無い。

瑚太郎（仕方が無い、奥の手を使うか）

俺はポケットから、小銭を取り出し、小鳥の掌に落としていった。すると、小鳥が嬉しそうな顔をしながら、その場で起き上がった。

小鳥はねぼけながら挨拶をしてきた。

小鳥「あっ瑚太郎君おはよう」

俺は苦笑をした。

小鳥「夜だよ！暗いよ！」

と小鳥は周りを見ながら言ってきた。

そして、自分の周りにあるカードを片付け出した。

瑚太郎「今日もヴァンガードのデッキを考えていたのか？」

と俺が言うと、

小鳥「そうだよ」

小鳥「そうだ、一回だけ、ファイトしない？」

瑚太郎「別に良いが大丈夫なのか？」

小鳥「うん問題ないよ」

瑚太朗「よしわかった。」

お互いに最初に5枚ドロースる。

小鳥「私はカードを1枚戻すよ」

瑚太朗「俺は3枚戻す」

そしてお互いカードを入れ替える。

瑚小「スタンドアップザヴァンガード」

小鳥「ハイドッグ」

瑚太朗「アンバードラゴン・ドーン」

ターン1小鳥手札5瑚太朗手札5

小鳥「私の先攻、シルバールフにライドハイドッグのスキルで左下にCしてターン終了だよ。」

ターン2小鳥手札5瑚太朗手札5

瑚太朗「俺のターンデイルイトにライド、ドーンの効果でダスクを山札から、手札に加える。デイルイトでアタック」

小鳥「ノーガードだよ」

瑚太朗「トリガーチェック、ター☆トリガーだ+5000と☆1をデイルイトに」

小鳥「ダメージチェック1枚目モンキールー2枚目ヒーリングロコン治トリガーだよダメージを1枚回復するね。」

瑚太朗「ターンエンド」

小鳥現れる前編（後書き）

見てもらって分かる通りキャラのデツキは原作っぽく作っています。

小鳥現れる後編（前書き）

小鳥のデッキはさらに強くしていく予定です。

小鳥現れる後編

ターン3 小鳥手札5枚 D1V シルバーウルフ左後方 ハイドッグ 瑚太朗手札5枚 Vデイルイト

小鳥「私のターンドローパーンダ（ジオグラフィアント）にライド、ハイドッグのスキル発動このカードをソウルに入れて自分のグレートネイチャーのパワー+3000する。パンダのパワーを+3000にするよ。そして手札のちびもすのスキルを発動。このカードは自分のVにパワー13000以上のグレートネイチャーのユニットがいる時スペリオルライドが出来るんだよ。」

ちびもすパワー11000

(V/R) Rに自分のグレートネイチャーがない時パワー2000。

(V) このカードがグレートネイチャーにブーストされたバトルのときこのカードのパワー+3000する。

瑚太朗「常時パワー14000と考えたほうが良いつて事だな」

小鳥「うんそうだよ！まだ行くよ、ガーディングピーグを左前方にCさらにシルバーウルフを左後方にCするよ。」

小鳥手札2枚 D1V ちびもす左前方 ガーディングピーグ左後方 シルバーウルフ

瑚太朗手札6枚 Vデイルイト

小鳥「バトルシルバーウルフのブーストでガーディアンピーグでデイルイトにアタック。」

パワー16000

瑚太朗「ターでガード。」

小鳥「ちびもすでデイルイトにアタック。」

パワー11000

瑚太朗「そこはノーガードだ」

小鳥「トリガーチェック1枚目プレゼントコアラ引トリガーだよ、

パワー＋5000はガーディアンピーグにそしてカードを1枚ドロ
ーするよ、2枚目ハイジャンプタイガー醒トリガーパワー＋500
0をガーディアンピーグにしてスタンドさせるよ。」

瑚太朗「ダメージチェックバーだ。」

小鳥「ガーディアンピーグでアタック。」

パワー18000

瑚太朗「ノーガードダメージチェックガトリングクロー引トリガー
だ、カードを1枚ドロースる。」

小鳥「私のターンは終了だよ。」

ターン4

小鳥手札5枚D1Vちびもす左前方ガーディアンピーグ左後方シ
ルバーウルフ

瑚太朗手札7枚D2Vデイライト

瑚太朗「俺のターンスタンドアンドドロースクにライドV後方に
デイライトをCデイライトのスキル発動オーバーロードを捨ててイ
クリプスをデッキからサーチする。左前方にネハーレンをC左後方
にエルモをCさらにバーサークを右前方にCスキルでCB2でガー
ディアンピーグを退却させる。右後方にバーをC。」

小鳥手札5枚D1Vちびもす左後方シルバーウルフ

瑚太朗手札2枚D2VダスクV後方デイライト左前方ネハーレン
左後方エルモ右前方バーサーク右後方バー

瑚太朗「デイライトでブーストしたダスクでちびもすにアタック。」
パワー18000

小鳥「ノーガード。」

瑚太朗「トリガーチェックバリエ。」

小鳥「ダメージチェックパンダ。」

瑚太朗「エルモでブーストしたネハーレンでちびもすにアタック。」
パワー16000

小鳥「ハイジャンプタイガーでガード。」

瑚太朗「バーでブーストしたバーサークでちびもすにアタック。」

パワー17000

小鳥「ノーガードダメージチェックガーディアンコング完全ガードが落ちちゃったよ。」

瑚太朗「ターンエンド。」

ターン5

小鳥手札4枚D3Vちびもす左後方シルバーウルフ

瑚太朗手札3枚D2VダスクV後方デイルイト左前方ネハーレン左後方エルモ右前方バーサーク右後方バー

小鳥「わたしのターンスタンドアンドドロライドスキップV後方にソニックバードをC左前方にパンダをC右前方にモンキールーをC。」

ソニックバードパワー7000

(V/R)CB1このカードのパワーを+1000する。

小鳥「バトルモンキールーでネハーレンにアタック。」

パワー10000

瑚太朗「バーサークでインターセプト。」

小鳥「シルバーウルフでブーストしたパンダでネハーレンにアタック。」

パワー18000

瑚太朗「ゲンジョウでガード。」

小鳥「ソニックバードでブーストしたちびもすでダスクにアタック。」

パワー21000

瑚太朗「ノーガード。」

小鳥「トリガーチェック1枚目ガーディアンコング2枚目エレファントアンカー☆トリガー☆+1とパワー+5000をちびもすに。」

瑚太朗「ダメージチェック1枚目ゲンジョウ2枚目イクリプス。ここに来ての空ヒールは痛い」

小鳥「ターン終了だよ。」

ターン6

小鳥手札4枚D3VちびもすV後方ソニックバード左前方パンダ
左後方シルバーウルフ右前方モンキールー

瑚太朗手札2枚D4VダスクV後方デイルイト左前方ネハーレン
左後方エルモ右後方バー

瑚太朗「俺のターンスタンドアンドドロイクリプスにライド右前
方にラーヴァアームをCバトルバーでブーストしたラーヴァアーム
でちびもすにアタック。」

パワー20000

小鳥「エレファントアンカーでガード。」

瑚太朗「デイルイトでブーストしたイクリップスでちびもすにアタッ
ク。」

パワー17000

小鳥「そこはノーガードでいいよ。」

瑚太朗「トリガーチェック1枚目ター☆+1をイクリップスにパワー
+5000をネハーレンに2枚目ドラゴキッド☆+1をイクリップス
にパワー+5000をネハーレンに。」

小鳥「このタイミングで☆☆!!なの?ダメージチェック1枚目ヒ
ーリングロコンこのタイミングで来たって意味無いよ!一応パワー
+5000をちびもすに2枚目シルバーウルフ3枚目エレファント
アンカー私の負けだよ。」

WINNER瑚太朗

瑚太朗「ファイトが終わったからそろそろ帰るか?」

小鳥「・・・うんそうだね」

瑚太朗（よっぽど悔しかったのだろうか）

そして22時に帰宅した。小鳥は理香子さんに何も怒られずにそ
の日は終わった。しかし俺たちが帰った後森ではある組織とある組
織が対立していた事に俺はまだ知らなかった。

小鳥現れる後編（後書き）

今回はオリカが目立ったと思われます。

後はグレートネイチャーのアイコンが出たらそっちにしますの
でよろしくお願いします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2568z/>

Rewriteの世界でヴァンガード

2011年12月13日00時58分発行